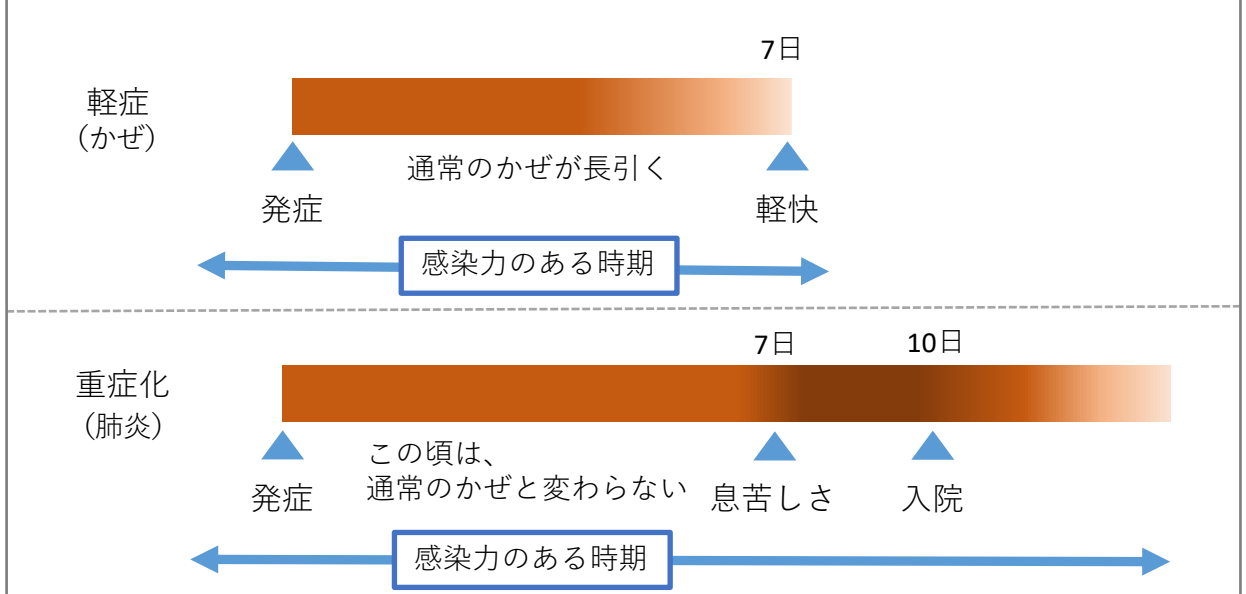


発熱やかぜの症状で受診された方へ

新型コロナウイルス感染症は、症状が出てすぐの時期には「通常のかぜ」と区別が付きません。自宅で休んでいれば、およそ8割の新型コロナウイルス感染症はかぜのような軽い症状のまま自然に治ります。一方で、一部の新型コロナウイルス感染症は1週間ほどしてから急に症状が悪くなることがあります。

新型コロナウイルス感染症の一般的な経過



症状が軽ければ、仕事や学校を休んで外出を避け、自宅で様子をみてください。自宅で様子を見る期間は、一般の方は4日間、ご高齢の方・持病がある方（高血圧、糖尿病、心臓や肺の病気）・妊娠中の方は2日間です。1日2回、朝と夕方に体温を測り、ノートに記録してください。自宅で休んでいる時に不安がある場合は、当院へ電話で相談してください。

保健所や当院に連絡するタイミング

かぜの症状（熱、せき、のどの痛みなど）がさらに続いた場合や、様子をみているうちに呼吸が苦しくなるなど症状が悪化したら、まずは「杉並区帰国者・接触者電話相談センター（Tel：03-3391-1299）」へ電話で相談してください。同センターの指示で当院へ再び受診する場合は、当院に電話をしてから受診してください。受診する場合は、たとえ咳やくしゃみがなくても必ずマスクをつけてください。

職場や学校への復帰のタイミング

通常のかぜと新型コロナウイルス感染症を厳密に見分けるのは難しいです。そのため、新型コロナウイルス感染症にかかった時に準じて休養することをお勧めします。以下の2つの基準¹⁾を参考にしてください。

症状が出てから
少なくとも8日

かつ
+

(薬を使用しない状態で)
発熱やかぜの症状が
治まってから少なくとも3日